

丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和6年2月発行

誰もが居場所のある学校づくりを通して挑戦する子供へ 校長 土屋 貴俊

子供たちは、学校教育目標の「挑戦 つながる笑顔 丹那の子」の実現に向け4月から様々なことに挑戦してきました。後期学校評価の「めあてをもって挑戦し続けている」の項目において95%の児童が肯定的(A・B)に回答しています。

新たなことや難しいことにも挑戦しようとする意欲は、「他者とかかわり、集団の一員として認められている」という**所属感**や「他者から大切な仲間として認められている」、「みんなの役に立っている」という**自己有用感**を味わうことで高まっていくのではないのでしょうか。

さらに、「やったらできるようになった」「やり遂げることができた」というような小さな成功体験や達成感を積み重ねていくことによって、その子なりに見通しをもち、新たな目標の実現に向けてがんばる力がわいてくるものだと思います。

また、コミュニティ・スクールや少人数を生かした**オール丹那の共有体験**を通して子供同士がつながり、地域や保護者の皆様から認められ励まされることでも**挑戦し続ける(試行錯誤を繰り返す)子供**が育ってきています。

さらに、子供にとって最も大切な時間は学習の時間です。「学び方が分かる」、「授業が楽しい」と実感できた子供は自ずと教室が居心地のいい場所となります

す。本校では自分の考えをもつことや自分で最適な方法を選択したり、決定したりする機会や場を重視し、ICTを活用して**個別最適な学び**(子供一人一人の興味や関心、ペースに合わせた柔軟な学び)と**協働の学び**(一人一人異なる考えを突き合わせて、よりよい考えにつなげていくこと)の**一体的な充実**を推進しています。クロームブックを使うことで、瞬時に他者の考えを知り、自分の考えと比較することができます。なかなか自分の考えがまとまらない場合は、他者の考えを参考にすることもできます。他者とつながり、自分の思いを表現することで安心して授業に参加することができます。それが一人一人の居場所につながっています。



1年生にあやとりを教える2年生



1年生に読み聞かせをする4年生



考えをつきあわせて深め合う5年生

めあて and 追究方法	今日の学習で一番大切だと思ったこと。	今日の学習の感想や次の学習に向けて考えたいこと。
先生が小数の筆算の仕方を教えてもらうので理解する。	小数点がついた計算の仕方が大分わかったこと。	次は、67から68ページを終わらせたいです。あと、今日家でeライブラリをしてくる。
25	22	41
教科書を自分でやって、わからないところは友達に聞く。間違えたところもう1回練習したい。	小数点の点の位置と小数点より左の小数第一位の位の関係がわかった。	67ページと68ページを終わらせることができた。スムーズにできたし、わからないところは澤さんと教え合いながら進められた。今日は、小数の掛け算や割り算などを解いた。小数点の位置を見間違えないよう気をつけたいです。全問正解だったから嬉しかった。明日は、69ページと70ページを終わらせたいです。

友達の考えを共有する画面

【授業に関する児童の学校評価(A・B)結果:後期】

- ① 授業中、学習に自分から取り組んでいる 100%
- ② 授業中、自分の考えをもって学習している 98%
- ③ 自分で学び方を選んだり決めたりしている 91%
- ④ 友達の考えを自分の学びに生かしている 93%